



片平キャンパス お散歩マップ

1907（明治44）年に東北帝国大学が創設された本学発祥の地であり、昭和40年代前半までは多数の学部・研究所が集まった大学のメインキャンパスでした。青葉山・川内キャンパスへ工学部などの移転整備が進められた以降は、金属材料研究所、電気通信研究所などの世界的な研究成果を挙げている研究所や大学本部を中心とするキャンパスとして整備が進められました。最近では、旧東北帝国大学理学部化学教室（昭和2年建設）を改修した大学本部棟やナノ・スピニング総合研究棟などが整備されているほか、キャンパス内の豊かな緑と近代建築が評価され、仙台市の「都市景観大賞」や、せんだいデザインウィークの一環として開かれている街中デザインコンクールにおいて「伝統デザイン賞」を受賞しています。

① 東北大学正門

大正14(1925)年に建造された御影石の門。当時、相当な金額をかけて造られました。門が街の中心部とは違う方向に開かれているのは仙台城を意識しているためだといわれています。



② 東北大学本部棟

昭和2(1927)、10(1935)年と2期に渡って建てられた旧東北帝国大学理学部化学教室は、大規模な改修を経て大学本部棟として利用されています。スクラッチタイトルの表情と周りの緑が相まって、学都仙台のシンボルといえるような雰囲気があります。



③ 東北大学史料館

大正14(1925)年に建設された旧東北帝国大学附属図書現在では、百年にわたる北大学の記録文書をはじめ、東北大学やその構成員に関する歴史的資料を保存・公開する史料館として、様々な企画展を開催し、一般の方にも公開しています。



④ 魯迅の階段教室

明治37(1904)年に建てられた、仙台医学専門学校（唯一の建築的遺構（博物・理化学教室））。魯迅が学んだ校舎としても貴重であり、イベント時等に一般公開されることがあります。



⑤ 放送大学

（旧東北帝国大学理学部生物学教室）

大正12(1923)年に建てられた仙台初のRC造で、ゼツェッション様式の玄関廻りや片平丁から見える円形コーナーが美しい建物です。現在は放送大学として使用されています。



⑥ 本多記念館

昭和18(1943)年に第6代総長本多光太郎の功績を記念し建てられた建物。建設が戦時中で、鉄筋の手配等が非常に困難だったそうです。所長室や直筆のノートなどが閲覧出来ます。



⑨ 21世紀ITセンター

仙台高等工業の建築学科であり、南六軒丁に向けたゲートとして昭和5(1930)年に造られ、一時は東北大学の建築学科としても使用されました。表現主義的デザインがされており、仙台高等工業のマーク入り煉瓦のアーチも特徴的です。



⑩ 多元研素材工学研究棟 + 事務室

東北帝国大学工学部の機械・電気工学教室として昭和5(1930)年に建てられた本学工学部の歴史を伝える建物。エントランスホールが帝国大学の気品を残しています。



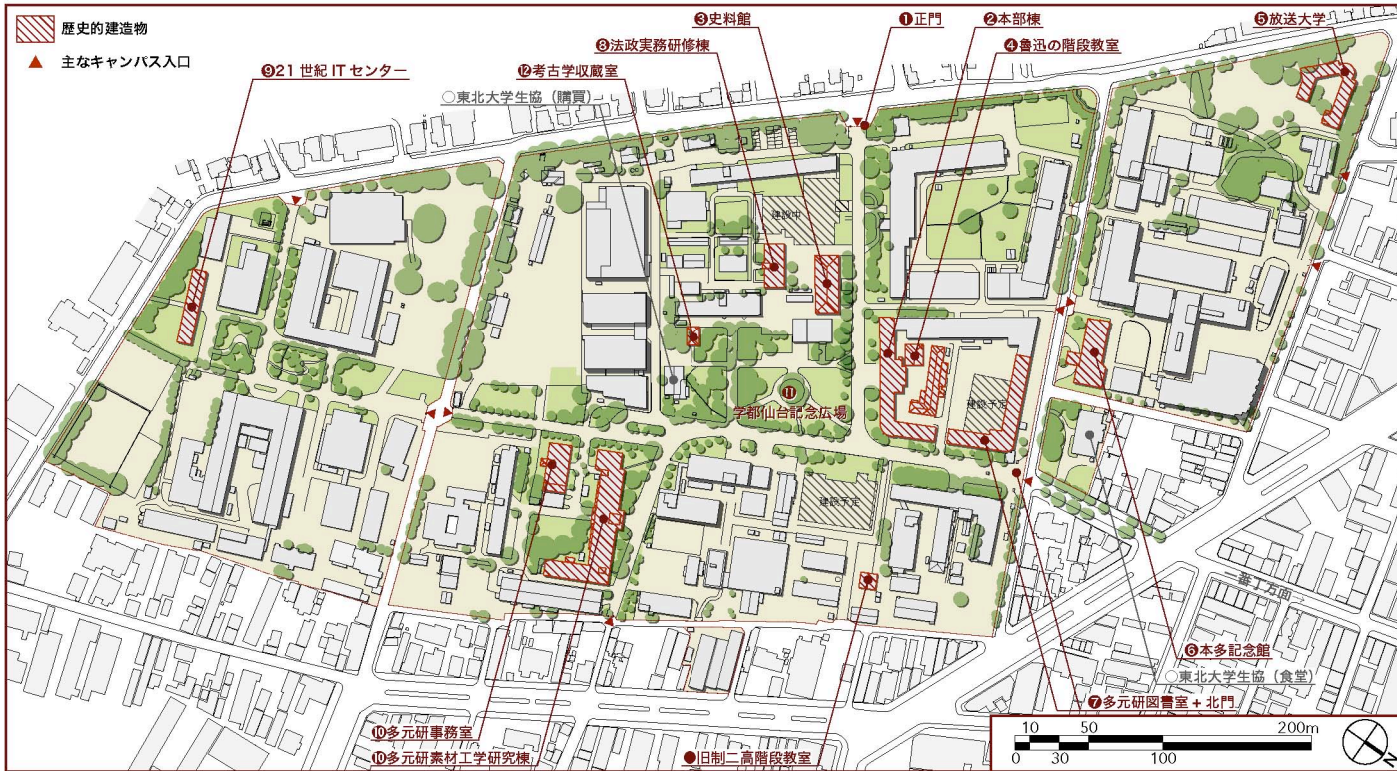
⑪ 学部仙台記念広場（仮称）

中央の広場は、春には桜の下、多くの花見で賑わいます。また北門から続く道路は元禄の頃から桜小路と呼ばれてきた通りで、第7代総長熊谷岱蔵博士が昭和15(1940)年の就任後まもなく巨理郡浜吉田から移植した黒松の並木が続いています。今後、さらに開かれた広場として整備する計画です。



⑫ 文学部考古学収蔵室（旧第二高等学校書庫）

明治43(1910)年以前に建てられた仙台に残る明治期煉瓦造建築の貴重な例。明治維新後、全国に建てられた煉瓦造建築の歴史を伝える遺構であり、仙台では他に例がなく貴重な都市財産です。



⑦ 多元物質科学研究所図書室と北門

（旧東北帝国大学工学部金属工学教室）

大正13(1924)年に建てられたL字型プランの建物。スクラッチタイトルの創り出す落ち着いた雰囲気は片平キャンパスの顔として80年以上親しまれています。



⑧ 法政実務研修棟

大正14(1925)年に建てられた旧法文学部2号館。片平キャンパスに現存する近代建築の保存を推進する市民団体「片平キャンパストラストファンド」から、復元した玄関照明が寄贈されました。

